



ザンバーン通信

女子学生インタビュー

理工系の室蘭工業大学で、生き生きと学生生活を送る女子学生たちにインタビュー！進学を決めた理由や、現在学んでいることなどについてお話しいただきました。将来の目標に向けて前向きに学ぶ姿を見て、「理工系って面白そう!」、「私もやってみたい!」と感じる中高生の皆さんが一人でも増えることを期待しています。

室工大への進学の経緯

私は、小さい頃から留学に憧れていましたが、留学の夢が叶わないまま中国の内蒙古大学で3年生になりました。卒業後の進路について真剣に考えたとき、このまま大学を卒業して就職できそうな仕事に魅力を感じませんでした。そのとき、留学したいという子供の頃の夢を思い出し、大学の先生に相談したところ室工大の徳樂先生を紹介してくれました。

その後、タイミングよく徳樂先生が中国の内蒙古師範大学に講演に来られ、日本の大学でタンパク質の研究をされているということを知り、徳樂先生の研究室に興味を湧きました。そして徳樂先生に連絡をとり、室工大の大学院入試の半年前から研究生として受け入れていただき、無事、大学院の入試に合格し、室工大の修士1年生になりました。

博士前期課程（修士課程）を修了後、博士後期課程（博士課程）にも進学しました。博士後期課程にも進学した理由は、さらに生物について徳樂先生のもとで勉強したかったのと、出身の内蒙古大学に室工大の博士後期課程を修了後に教員として戻って来られた先輩がいたためです。

アルツハイマー病の予防の研究

私は、アルツハイマー病の予防についてタンパク質に着目して研究を行っています。アルツハイマー病は認知症の中で最も一般的な病気です。アルツハイマー病の原因は、アミロイドβと呼ばれるタンパク質が脳の中に異常な凝集体を作り、神経細胞にダメージを与えるため発症すると考えられています。

私が取り組んでいる研究は、このアミロイドβの凝集を阻害する活性成分をキノコから見つけることです。卒業した研究室の先輩が212種類のキノコから有望なものを見つけてくれました。私は、この有望な種のキノコに含まれるアルツハイマー病予防に関する機能性成分について詳しく調べています。

また、博士後期課程のインターンシップ制度を利用して北海道大学の先生とも一緒に研究を行っています。

フレンドリーな研究室

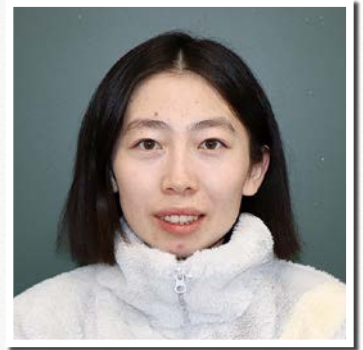
徳樂先生の研究室は他の研究室に比べ、女性の比率は高いです。勉強で分からないことがあれば、気軽に先生に聞くことができ、研究室の仲間も助けてくれます。日本に来た当初は、日本語をなかなか理解することができませんでした。研究室の仲間が何度も丁寧に実験方法等について教えてくれました。研究室の環境はとてもフレンドリーで温かく、ホームシックになることもなかったです。

今後のキャリアプラン

室工大にて博士号を取得した後は、ポスドク（研究員）としてヨーロッパまたはアメリカで研究したいです。その後は、中国または日本の大学の教員になりたいと思っています。大学教員という職業は、単に研究を続けるだけでなく、自分が知っている知識を他の人達に伝えるというところに大きなやりがいを感じます。

女子中高生へのメッセージ

私にとって室蘭はとても良い学習環境と生活環境が整っています。室工大には



博士後期課程
工学専攻
先端環境創生工学コース1年
GEGENTUYAさん

さまざまなサークルや部活がありますし、室蘭にはスキー場もあり、有名なニセコのスキー場にも比較的近いです。工業大学というと女子が少ないため不安に思われる方も多いと思いますが、楽しく大学生活を過ごしている女子学生が多くいます。また、女性が工業大学を卒業する姿はカッコいいですし、博士後期課程の学生が対象の奨学金制度もあります。室工大での大学生活は絶対に後悔しないと思っています。



——— 自分の知識を他の人達に伝えるというところに大きなやりがいを感じる大学教員になりたい

■ キャリア形成のためのランチタイムセミナー 第16回 ■

「変化し続ける私のキャリア・ライフプラン」

講 師：吉敷 由起子 氏（株式会社構造計画研究所 電波技術部部长）

日 時：令和4年10月26日（水）12:10～12:45

場 所：室蘭工業大学 教育・研究1号館 A317教室

対 象：本学の学部学生・大学院生 他

令和4年10月26日（水）に「キャリア形成のためのランチタイムセミナー 第16回」を開催しました。講師の吉敷 由起子 氏より所属会社の事業内容の紹介や自身のキャリアについて時系列で振り返り、当時の考えとともに具体的にご説明いただきました。また、研究活動のほか、社内のワークライフバランスの推進に貢献された話についても語られ、社会人としてキャリアを重ねる中で直面した出産・子育て等のライフイベントの変化に臆することなく、社会人ドクターとして学業や研究に励む等、着実にキャリアアップの実現を図る姿勢が印象的でした。

当日は23名の参加があり、参加者からは「研究職の女性のライフスタイルを知る機会が少なかったため、勉強になりました。」「経営者側にも女性がいることで平等な制度を作ることができると感じました。」などの感想が寄せられ、好評のうちに終了しました。



■ 教職員のためのダイバーシティセミナー2022 ■

「災害対応を男女共同参画の視点で考える」

講 師：国崎 信江 氏（株式会社危機管理教育研究所 代表）

日 時：令和4年11月17日（木）13:00～14:30

場 所：室蘭工業大学 本部棟3階 大会議室

対 象：全教職員、学生、一般

令和4年11月17日（木）に「教職員のためのダイバーシティセミナー2022」を開催し、本学教職員及び執行役員のほか、オンライン配信（Zoom）にて聴講した学生及び北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）連携機関の方も合わせて34名が参加しました。

本講演会は、本学の教職員を主な対象に男女共同参画推進の意識啓発を目的として、年1回開催しています。

本年度は、講師に株式会社危機管理教育研究所代表 国崎 信江 氏をお招きし、「災害対応を男女共同参画の視点で考える」と題して、被災地の実情をご紹介いただくとともに、災害時における乳幼児及び妊産婦等の要配慮者に対する支援の課題や災害分野における女性参画の重要性についてご講演いただきました。

参加者からは、「講師が実際に体験したことを織り交ぜたお話は、説得力があります。子育て期はとうに過ぎてしまいましたが、次世代がそういった負の体験をしないように立ち振るまっていきたいと思うし、提案もしていきたいと思いました。」などの感想が寄せられ、盛況のうちに終了しました。



■ 第5回全国ダイバーシティネットワークシンポジウム ■

「誰もが活躍できる協働未来の実現に向けて」

日 時：令和4年12月9日（金）13:30～16:00

開催方法：オンライン（Webex ウェビナー）

対 象：全国ダイバーシティネットワーク参画機関

主 催：全国ダイバーシティネットワーク（開催担当：東京農工大学）

全国ダイバーシティネットワークシンポジウム「誰もが活躍できる協働未来の実現に向けて」が開催され、本ネットワーク参画機関で構成される分科会グループディスカッションにて、本学の木幡 行宏 男女共同参画推進室長・副学長がパネリストとして出席しました。同グループである岡山大学、京都大学、名古屋大学の3大学とともに「上位職・管理職登用等における取組と課題」をテーマに女性教員の積極的な登用に向けた施策等について議論を深めました。

また、シンポジウムでは中部大学総長補佐・特任教授の宮浦 千里 氏より「ダイバーシティと社会課題 ～全国ネットワークの役割を考える～」と題した基調講演につづき、岡山大学病院ダイバーシティ推進センター長・教授の片岡 仁美 氏より「岡山大学におけるD&Iの取り組みについて」と題し先進的な取組事例の紹介が行われ、本ネットワークにおける連携の重要性を改めて感じる機会となりました。



ダイバーシティ通信 第17号（2023年3月）

国立大学法人 室蘭工業大学 男女共同参画推進室 女性研究者支援ユニット（UFR）

〒050-8585 北海道室蘭市水元町27番1号 TEL：0143-46-5018 / FAX：0143-46-5032

E-mail：ufr@mmm.muroran-it.ac.jp URL：https://www.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/

本誌および本学の男女共同参画等についてのご意見・ご要望をUFRまでぜひお寄せください。

本学の男女共同参画推進を応援して下さる個人・企業からのご寄付を受け付けております。詳しい手続きは下記URLをご覧ください。
https://www.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/kifu.html
ぜひご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

男女共同参画推進室
Office for Promotion of Gender Equality

女性研究者
支援ユニット
Unit for Female Researchers